

一年間よろしくお願ひします。

この度、新しく六年四組の担任させて頂いたただくことになりました。今の子どもたちとは四年生から三年間のつきあいになります。私の紹介は「みんなで」学級文集に載せていきますのでそちらをご覧ください。

子ども向けの「みんなで」にも書いたように、今年が教師最後の年になりました。最後なら、一日でも長く子どもたちと時間を過ごし、最後の授業を行いたいの、それが出来ないの、とても残念なことです。また、家庭訪問もなくお話しできずに、玄関にポスティングのみすることをお大変心苦しく思っています。コロナが早く終息し、学校が始まるのを待つ日々です。

さて、「みんなで」の裏面では、保護者向けの通信を始めます。お伝えしたいことができれば不定期で発行したいと思ひます。教育を巡る話題やクラスの様子など、伝えたいことがたくさんあるので、出来る限り書きたいと思ひます。一方的な発信になりますが、おうち向けの「みんなで」読んでいただきたいと思ひます。読んでもらうことにより、私の人となりや、どのような教師なのかがわかっていただければと思ひます。この一年間よろしくお願ひします。

社会の教科書について

1. 教える順序が変わった教科書

今年度から新しい学習指導要領が小学校では本格的実施となりました。教科書も新しく変わっている所も多くて、今回は社会の教科書について、お話ししようと思ひます。

○新しい教科書では

一度見ていただきたいのですが、上・下ではなく、今年度から、歴史編、政治国際編（公民分野）という2冊に変わってきています。従来は、歴史から始まって、その後公民分野を学習するという流れですが、予定では（コロナがなくて普通に始まった場合）一学期は、公民分野から始まって、六月ごろから歴史学習となり、天皇中心の国づくり（奈良時代まで）を、学習する計画になっています。そして、三学期に再び公民分野の「世界の中の日本」を学習します。

○教師には不評

①社会見学との関係は？

この変わりよう、ほとんどの教師には不評です。奈良県の学校では、春の社会見学は飛鳥や大仏、平城宮跡に出かけます。奈良県に住んでいるからこそ生きた学習が出来て、子どもたちが歴史に興味を持つきっかけになります。社会

見学は、通常五月に行われる場合が多いのですが、新しい教科書だと、まだ歴史学習が始まっていないのに見学に出かけることになります。公民分野と歴史分野を並行して行うのか、あるいは、奈良時代まで終わってから公民分野に入るのか、学習内容の移動や変更を、学年としてしっかり考えて行きたいと思ひます。

②修学旅行との関係は？

県内の小学校は、修学旅行に広島平和公園を訪れるところが多数です。今年は十月終わりの予定ですが、例年、修学旅行の前までに、戦争に至った歴史を学習して、修学旅行に臨みます。しかし、新しい教科書の学習計画では、戦争に至る十五年戦争を学習するのは、三学期の一月となっております。修学旅行と学習の関係をどうするかを検討しなければなりません。

③日本国憲法を学ぶ意味は？

公民分野では、憲法についてのことを中心に学習を進めて行きます。しかし、日本国憲法を学習する際にも、制定の歴史的背景が全く抜けています。戦争（最もひどい人権侵害）への反省から出発したという記述や、前の大日本帝国憲法との対比で、主権が天皇から国民に変わったという記述が、新しい教科書からなくなっているのです。これも、どうするかが問われていることです。

2. 記述が変わった教科書

新しい教科書には、私（保護者の方）もそうでしょうか？が習ってきた教科書の記述とは違った所が随所に見られます。これは、いろんな新しい発見や学説により、これまでの教科書で常識とされていたことが見直され、新常識として記述が変わっているのです。

①源頼朝と鎌倉幕府

私は「イクニつくり鎌倉幕府」という語呂合わせで鎌倉幕府の始まりを教わったのですが、今では、一一八五年とする説が有力です。と言うのも、一一九二年には、既に頼朝が全国に守護と地頭を置いており、実質的な支配権を得た年が一一八五年とされているのです。「征夷大將軍になること『幕府の成立』という考え方は江戸時代後期に誕生したといわれ、今では、朝廷から武士である頼朝に権力移った年を鎌倉時代の始まりとしています。六年生の教科書には、次の

ように記されています。

「平氏をたおした頼朝は、朝廷にせまって、家来とな



った武士（御家人）を地方の守護や地頭につけ、大きな力をもつようになりました。そして、一一九二年、武士のかしらとして、朝廷から**征夷大將軍（將軍）**に任ぜられました。頼朝が鎌倉（神奈川県）に開いた政府を、鎌倉幕府とい

ます。 ※征夷大將軍は太字で強調しています。これでは、一一九二年が鎌倉幕府ではないかと誤解してしまうような表記で、どこか苦しさを感じる書き方ですが、「一一九二年に鎌倉幕府が開かれた」とは書かれていないのです。さらに、源頼朝像にも変化があります。今までの教科書では、このようなどとも凛々しい姿の頼朝でした。これは、京都神護寺所蔵の肖像画ですが、一九九五年に「あの肖像画は、実は室町幕府の初代征夷大將軍である足利尊氏の弟、足利直義のもの」という発表があったことで、見直されることになったのです。服装が鎌倉時代末期のものとされることや、足利直義が兄の尊氏と自分の肖像画を神護寺に納めたという文書があることが主な理由だそうです。それ以降は、教科書にも「源頼朝と伝えられる肖像画」

「伝源頼朝像」と言った表記になり、今回の教科書にはとうとう掲載されなくなってしまうました。

それに代わったのが、甲斐善光寺にあるヒノキの木像です。これは、源頼朝の死後、妻の北条政子が供養のために制作を



指示したとされ、一二〇〇年代に完成したとみられます。像の内部にそのことを記す銘文があることなどから、現存する頼朝像の中で最古とされています。元々この木像は、長野の善光寺にあったのですが、川中島の合戦の時に、武田信玄が善光寺の焼失を恐れて、一五五八年に寺にあった仏像などを、すべて甲斐に持ち帰って移設したようです。武田信玄のおかげで善光寺の御本尊や今回の源頼朝像などが現在まで残ったと言われています。



ずいぶん印象が違います。

頼朝のことを書き出したら、これで終わってしまいました。次号からも、教科書のことを書いて行こうと思いますので、どうぞおつきあいください。